

かしま 議会だより

第125号

令和8年3月定例会号

令和8年5月発行

発行／鹿島市議会 編集／議会だより編集委員会
〒849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2643番地1 TEL63-2104 FAX63-2314
印刷／鹿島印刷株式会社



鹿島酒蔵ツーリズム®2026 総合開会式

3月定例会	P2～P3
議案審議	P4
新年度予算審査特別委員会審査報告	P5
一般質問(11名)	P6～P11
文教厚生産業委員会審査報告	P12～P13
議会運営委員会行政視察報告	P14
追悼の言葉／議会報告会	P15
議会あれこれ／議長交際費	P16



鹿島市のホームページも
ご覧ください。

鹿島市議会 🔍 検索



鹿島市公式アカウント
でのひら市役所



いまずく友だち追加!

鹿島市議会
令和8年3月定例会 会期日程

1、会期
自 令和8年2月19日
至 令和8年3月24日

2、日程

【2月】

- 19日・開会
- ・会議録署名議員の指名
- ・会期の決定
- ・議案の一括上程(市長の提案理由説明)
- ・教育長の教育委員会の方針等に関する説明
- 20日・休会(議案研究)
- ・発言内容通告締切(正午)
- 21日・休会
- 22日・休会
- 23日・休会
- 24日・休会(議案研究)
- 25日・休会(議案研究)
- 26日・議案審議、質疑、討論、採決
- 27日・議案審議、質疑、討論、採決
- 28日・休会

【3月】

- 1日・休会
- 2日・常任委員会(議案審査)
- 3日・休会(議案研究)
- 4日・新年度予算審査特別委員会(開会、教育委員会ほか)

- 5日・新年度予算審査特別委員会(市民部)
- 6日・休会(議案研究)
- 7日・休会
- 8日・休会
- 9日・新年度予算審査特別委員会(政策総務部)
- 10日・新年度予算審査特別委員会(産業部)
- 11日・新年度予算審査特別委員会(建設環境部、審査、討論、採決)
- 12日・休会(議案整理)
- 13日・休会(議案整理)
- 14日・休会
- 15日・休会
- 16日・一般質問(2名)
- 17日・一般質問(3名)
- 18日・一般質問(3名)
- 19日・一般質問(3名)
- 20日・休会
- 21日・休会
- 22日・休会
- 23日・休会(議案整理)
- 24日・委員会審査報告閉会

次のことを審議し決定しました

【令和8年3月定例会】

		釘尾勢津子	宮崎幸宏	笠継健吾	中村日出代	池田廣志	杉原元博	樋口作二	中村一堯	松田義太	勝屋弘貞	角田一美	伊東茂	福井正		中村和典	徳村博紀	採決結果	
議案第1号	専決処分事項の承認について(令和7年度鹿島市一般会計補正予算(第6号))	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第2号	令和8年度鹿島市一般会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第3号	令和8年度鹿島市国民健康保険特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○		○	議長	賛成多数	可決
議案第4号	令和8年度鹿島市後期高齢者医療特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○		○	議長	賛成多数	可決
議案第5号	令和8年度鹿島市給与管理特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第6号	令和8年度鹿島市水道事業会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第7号	令和8年度鹿島市下水道事業会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第8号	鹿島市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第9号	鹿島市地域経済牽引事業の促進のための課税免除に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第10号	鹿島市行政手続条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第11号	鹿島市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○		○	議長	賛成多数	可決
議案第12号	鹿島市ひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第13号	鹿島市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第14号	令和7年度鹿島市一般会計補正予算(第7号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第15号	令和7年度鹿島市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第16号	令和7年度鹿島市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第17号	令和7年度鹿島市水道事業会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決
議案第18号	令和7年度鹿島市下水道事業会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	議長	賛成全員	可決

○・・・賛成 ×・・・反対 退・・・退席 欠・・・欠席

議案 審議

議案第9号

鹿島市地域経済牽引事業の促進のための課税免除に関する条例の制定について



笠継 健吾議員

質問 令和8年度より地域経済牽引事業を市内で新たに行う者に対し、家屋及び構築物並びにこれ

らの敷地である土地の固定資産税の課税を3年間免除することについて、市の大村方、谷田工場団地についても対象となるか。

答弁 進出企業及び既存企業が、地域産業全体のため県の承認を得て行う者が対象である。大村方、谷田工場団地も市内であり対象となるが空いている場所は現在ない。情報発信は積極的に行っていく。

議案第11号

鹿島市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について



伊東 茂議員

質問 少子化対策を強化するため国はこども未来戦略の加速化プランを令和5年12月に策定した。子育て支援の拡充に

必要な財源を18歳以上の世代を対象に令和8年度から医療保険の保険料に「子ども・子育て支援金」が賦課される。金額は8年度、一人当たり平均月250円、翌年から100円ずつ段階的に上がっていく。子育て支援は必要だが65歳以上の年金受給者や後期高齢者か

らも徴収する条例には反対する。地方から反対の声を届けるべきである。答弁 これは国が議論を重ねた制度である。鹿島市だけが反対は出来ない。国に準じてお願いする。

議案第11号

鹿島市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について



樋口 作二議員

質問一 子ども・子育て支援金は、子どものいない家庭からも保険料に上乗せして徴収することが問題視されているが、税

額が予定より高額になったのではないか。

答弁 国民一人当たり月額250円程度であり、年収により差別化されるが増税はされていない。

質問二 高校生以下は無税となっているが、その補填も含めて徴収するか。

答弁 子ども子育ての趣

旨から18歳未満は徴収せず、18歳以上のすべての有権者から徴収することが決まっている。

議案第14号

令和7年度鹿島市一般会計補正予算(第7号)について



角田 一美議員

質問 地域脱炭素移行・再エネ推進補助金1億873万3千円を減額せざるを得なかった理由は何か。計画に対して

実績はどの位か。今後の推進をどう考えているのか。

答弁 太陽光発電設備設置補助を出来るだけ多くの方に利用していただくよう予算を確保したがPR不足と、設置者には一定の自己負担があり希望者が少なかった。太陽光設置計画228戸に対

し実績24戸、蓄電池設置計画155戸に対し実績20戸である。今後は、方針変換を国と協議し、事業者向けの補助制度の創設・公共施設等で実施する。

【新年度予算審査特別委員会審査報告書】

令和8年2月27日の本会議において付託されました下記6議案については、5日間にわたる質疑審査の結果、全議案について原案の通り可決すべきものと決しました。

- ・令和8年度鹿島市一般会計予算について
- ・令和8年度鹿島市国民健康保険特別会計予算について
- ・令和8年度鹿島市後期高齢者医療特別会計予算について
- ・令和8年度鹿島市給与管理特別会計予算について
- ・令和8年度鹿島市水道事業会計予算について
- ・令和8年度鹿島市下水道事業会計予算について

【主な質疑応答内容】

- (質問) 学校給食費無償化について
 (答弁) 小学校は国からの補助金で充当し、中学校給食費と食材高騰分は、物価高騰臨時交付金やふるさと納税、一般財源により無償化を行う。
- (質問) 部活動の外部委託などの計画について
 (答弁) 令和8年度から3年間に於いて土・日の部活動の地域移行に着手していく。
- (質問) 児童福祉事業の病児・病後保育について
 (答弁) 病児・病後保育事業は、嬉野市、武雄市、江北町の医療機関や保育所に委託している。鹿島市内の受入れについては、事業実施を希望されている施設と現在調整中である。
- (質問) 第一次産業従事者を呼び込むマッチング事業について
 (答弁) 農作業の人手不足を補うために、収穫などの繁忙期だけ手伝うことを目的とし、鹿島市を満喫しながら農業を行ってもらおう事業である。
- (質問) 田んぼダムについて
 (答弁) 母ヶ浦川下流域の浸水対策として、上流域の田んぼ所有者に調整板を設置してもらい、下流域への流水を調整するものである。
- (質問) 二枚貝養殖支援事業について
 (答弁) 近年の赤潮対策として、海苔養殖区間での二枚貝類の垂下式養殖への取り組みに対する支援を行う。
- (質問) 商業・商店街振興費の補助金について
 (答弁) 中心商店街の宿泊施設に対するまちやど整備補助金、中心市街地の団体が自発的に行う事業に対する中心商店街再活性化事業交付金、改装費の補助や備品購入費、移住者に対する改装費の補助を行う地域商業活性化支援事業補助金がある。

一般質問に11人が登壇しました

一般質問のYouTube動画配信！

3月16日、17日、18日、19日に行われた一般質問のYouTube動画を観ることができます。

【3月16日】



釘尾 勢津子 議員
杉原 元博 議員

【3月17日】



中村 日出代 議員
樋口 作二 議員
中村 一堯 議員

【3月18日①】



角田 一美 議員
松田 義太 議員

【3月18日②】



池田 廣志 議員

【3月19日】



中村 和典 議員
宮崎 幸宏 議員
勝屋 弘貞 議員



杉原 元博 議員

松尾市政の4年間を振り返って

質問 重点的に取り組んでこられた事と現状の鹿島市の課題や将来の姿について聞く。

答弁 他自治体や各種団体との連携、市長と語る会等を通して市民の声を聴き、市民目線を大切に

してきた。また審議会等の女性委員の登用など男女共同参画、手のひら市役所など市民サービス向上などに努めてきた。現状の課題は人口減少に伴う各産業の後継者不足、人材不足への対応、地球温暖化による大規模災害対応や熱中症による健康対策、長崎本線利用促進と利便性の維持確保や地域公共交通の利便性向上など地域交通の在り方等がある。将来の姿については、つながる笑顔のまちかしまを目指し、連携・協働、持続可能な街づくりを柱に据えて進め

ていく。
今年度で部長職を終えられる3人の部長へ聞く

質問 次の部長へ引き継ぐ鹿島市への想いと方向性について。

答弁 多良岳の緑や有明海の干潟、肥前浜宿の街並みや多様な伝統芸能と歴史など本物の地域資源がある。温かい市民の皆さまの力によって発展してきた素晴らしいまち。地域の特色を活かし、職員一丸となって、継続的に発展していけるよう事業展開をお願いしたい。地元の方、国県など関係機関との情報交換が非常に大切だと認識している。これ迄の経験や人脈などフル活用で頑張っていた

健康寿命延伸と病氣予防対策について

質問一 健康寿命を延ばす為の取り組みを聞く。

答弁 糖尿病性腎症など各種重症化予防対策としての訪問指導、フレイルや栄養に関する健康教育などを行っている。

質問二 健康チャレンジ事業について聞く。

答弁 がん検診や特定健診などの受診、健康教室への参加、自主的な運動など健康づくりへの取り組みに対し、特典を付与する事で健康に対する意識や行動変容に繋げ、介護予防や医療費削減に繋げる事を目的としている。

質問三 認知症の予防や重症化を防ぐ対策は。

答弁 運動やバランスの良い食事、生活リズムを整え、人との交流を持つなど脳の活性化を図る事が重要。重症化予防対策として認知症初期集中支援事業などを行っている。



釘尾 勢津子 議員

鹿島市民の幸福のために

【医療費削減】について

質問一 厚生労働省によると、令和6年度の国民医療費は過去最高の48兆円に達し、4年連続で過去最高を更新した。一人当たりの医療費は38万8000円、75歳以上の一人当たりの医療費は平均で97万4000円、75歳未満の平均は25万4000円となっている。鹿島市においてはどうか。

答弁 令和6年度の一人当たりの医療費は、国民健康保険で約50万円、後期高齢者医療で約113万円となっている。
質問二 令和元年度と令和6年度の国民健康保険税収納率について。

答弁 令和元年度は95.69%、令和6年度で95.34%となっている。

質問三 医療費増加と保険料の収入のバランスについて。

答弁 国民健康保険の保険給付費は、令和元年度で約25億3千7百万円、令和6年度で約25億6千9百万円と増加している。国民健康保険の収入額は令和元年度で約7億7千7百万円、令和6年度で約6億7千5百万円と減少している。

医療とスポーツの連携等

質問一 武雄市が本年度から取り組んでいる「運動・スポーツ習慣化促進事業」を鹿島市でも取り組めないか。

答弁 鹿島市では令和6年度から令和11年度までの事業である、「健康チャレンジ事業」を推進

していきたい。

質問二 教科書採択の基本的な考え方について。

答弁 採択の対象となる教科書はすべて文部科学大臣の検定を経て資格を与えられている。採択の基準は、「鹿島市の教育方針や地域の児童生徒の学びの実態を踏まえた上で、学習指導要領の目標を達成するために最もふさわしいもの」を採択している。

質問三 聖徳太子の扱いに見る歴史教育の考え方について。

答弁 歴史を学ぶ意味を考え、歴史的出来事が今の自分たちの生活につながり、未来へとつながることを教えていくことが望ましいと思う。



中村 日出代 議員

病児・病後児保育について

質問一 鹿島市の子どもたちを受け入れてくれる病児・病後児保育施設は武雄市の武雄こども園テトテ、嬉野市の樋口医院、江北町の古賀小児科がある。子どもの病気の回復まであと少し時間がかかるため小学校に行かせられない。鹿島市には施設がないために預けられない状況で仕事を休んでいる。非常に困っている家庭が多い。この状況について市の認識は。

答弁 利用状況は樋口医院令和5年度6人、令和6年度17人、令和7年度17人、テトテ令和5年度29人、令和6年度48人、令和7年度32人、古賀小児科令和5年度26人、令和6年度15人、令和7年度30人と年平均70人、80人の利用がある。

質問二 令和6年に市内

の病院から施設開設の申し出があったと聞いているが。

答弁 市内開設の実現をしたいとの意向を示しておられた。前向きな取り組みを続けている。努力していきたい。

質問三 実現できるように担当課で頑張ってもらいたい。

答弁 領（うなず）く。

伝承芸能の存続について

質問 伝承芸能の保存、継承を維持するためには多大な費用がかかる。資金不足で伝承芸能の維持が困難になっている。支援対策の考えを。

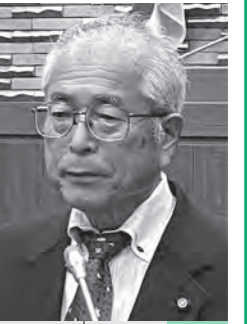
答弁 今年度実施計画に伝承芸能の用具に係る経費、後継者対策の支援を令和8年度の補正予算に計上を予定している。

給食センターの建設について

質問 施設は床が乾いた状況になっていないことで細菌が発生するため食中毒の恐れがある。施設内は夏場40度以上になる劣悪な職場環境になっている。鹿島市内の小学生徒合計2213名の食の安全が危機的状況にある。教育総務課は危機的状況と捉えているのか。

答弁 県内でも一番古い施設で老朽化が進んでおり夏場は30度を超える日が続いている。良い環境とは言えない状況にある事は認識している。新しい給食センターの改築に取り組んでいる。

一般質問



樋口 作二議員

退官三部長に聞く
鹿島市政への思い

鹿島市民の
経済事情について

質問一 鹿島市民の暮らしは豊かなのか。

答弁 経済的に全国平均には達していないが、市民税は微増しており、子どもの医療費の無償化等も進み、暮らしの豊かさにつながっていると思う。

質問二 ステルス増税は市民生活にどんな影響を与えるのか。

答弁 子ども・子育て支援金が国民健康保険などに上乗せして徴収されることになり、市民に不満が生じており、制度の意味をよく周知していきたい。

質問三 市民部の活動への思いを伺いたい。

答弁 子どもの貧困対策、子ども家庭センターの新設、手のひら市役所の実

施と少しずつ歩みを進めてきた。これからも田澤義輔氏の精神を受け継いで市政を進めてもらいたい。

建設環境部の
活動について

質問一 道路建設はどのように進むのか。

答弁 毎年100件を超える市道改良の要望の中から、緊急性等を考慮して優先順位を決めている。国道建設は県や市、地元と協議し、慎重な対応をして実施される。

質問二 環境行政はどのように進展してきたのか。

答弁 鹿島市民の環境意識は高く、ごみ分別など他市より進んだ取り組みができた。またラムサール条約推進室の設置等で森から海まで広く鹿島市の環境を意識するように

なった。

鹿島市を支える
第一次産業について

質問一 国家予算と鹿島市の農業についてどのようになっているか。

答弁 決して十分な予算とは言えないが、農業は国土保全や生物多様性保護等多面的な機能を持っているので、高機能品種の栽培等の産業政策と家族農業等小規模な地域政策を組み合わせて地域農業を維持進展させていくべきと考える。

質問二 有明海の現状をどう捉えられているか。

答弁 海産物の減少など厳しい状況が続いているが、貝類の養殖など工夫して漁場改善を図っていくべきと考える。

中村 一堯議員

小中学校の体育館冷房設備
導入について



質問一 近年、全国的に猛暑が常態化しており、子どもたちの学習環境や安全確保の観点から、小中学校体育館へ冷房設備導入が全国的に求められている。本年1月28日には鹿島市PTA連合会より鹿島市に対し、小中学校体育館への冷房設備導入を求める要望書が提出された。PTA会員や地域の関係者を含めて、2746名の署名が添えられたこの要望書は、子どもたちの安全と教育環境を真剣に考える保護者の皆様の強い思いの表れであると受け止めている。鹿島市PTA連合会から提出された、小中学校体育館への冷房設備導入を求める要望書について、市としてどのように受け止めておられるのか、松尾市長の考えは。

答弁 近年の夏場は本当に猛暑日が続いて、子どもたちの体育館での運動は大変な状況にあると認識している。佐賀県は全国でも最も小中学校体育館への冷房設備導入率が低いので国の臨時交付金を活用して整備を進めていく。2800名の保護者や関係者の皆様から提出された要望書を重く受け止めて、今後調整していく。

質問二 小中学校体育館への冷房設備導入スケジュールは。

答弁 まずは西部中学校と東部中学校の体育館に冷房を導入する。令和8年度に中学校体育館へ冷房設備を導入するための調査や実施設計をして、令和9年の夏頃までには体育館へ冷房を完備する予定である。小学校の体

育館への冷房設備導入については、整備状況を見極めながらどの小学校から導入するのかをしっかりと議論していく。



西部中学校体育館



東部中学校体育館



角田 一美議員

大木庭浄水場整備計画区域内の
簡易水道水源不足問題について

質問一 水道事業拡張計画区域内の簡易水道の現状について、お尋ねする。

答弁 簡易水道組合及び小規模水道組合は、22組合あり、このうち上水道の拡張計画区域内にある組合は13組合である。給水戸数は、663戸、給水人口は、1,722人である。

質問二 西三河区内内の水道組合については、水源不足で時間給水制限を余儀なくされ大変深刻な問題となっている。区民からの要望に対し市はどのように対応してきたのか。

答弁 従来の組合単位での対応でなく区全体で課題に取り組みたいと相談を受け、改めて水道利用状況、水源、設備状況を整理し、区長、役員、直接区民の皆様からお話しを伺い現状を共有した。

日々の生活不安や不自由な生活環境を改善するため、「上水道整備をお願いしたい」と伺っている。

質問三 新たな深井戸等による代替水源確保は困難であり、現計画の前倒しの検討が必要と思うが、市の考えはどうか。

答弁 住民の生活に深刻な影響が生じており、出来る限り早い取り組みが必要と認識している。浄水場の整備や配水管の敷設など多額の事業費が必要であり、前倒して着工しても完成迄に長期的な時間を要するため、従来の整備手法にとらわれず、柔軟な対応策を検討し、解決策を模索してまいりたい。

質問四 これまで拡張計画に同意しながら着工を待っておられた中で水不足問題が発生している。



大木庭浄水場建設予定地

地域で解決できない地区については、市単独事業としても早急に対応すべきと思うが市長の考えをお伺いする。

答弁 水不足で生活に困っておられる状況は市としても解決を図っていくかなければならないと考えている。どういう対策ができるのか地元と協議しながら話を進めていきたい。



松田 義太議員

鹿島市が直面する
政策課題について

教育環境の充実について

質問一 今後の市内小中学校体育館の空調設備設置計画について。

答弁 令和8年度に西部中学校、東部中学校の空調施設的设计業務に取り組み、設計が完了次第、年度途中からでも工事に着手し、令和9年に供用開始できるように事業を進める。小学校体育館については、経年劣化が進んでいる施設が多く、今後、改修工事の検討を行いながら、空調設置に係る計画策定に努めたい。

質問二 市内小中学校給食費無償化について。

答弁 令和8年度は小学生の保護者の給食費負担軽減策として国・県の交付金で手当てされるが、ふるさと納税の活用を合

わせて本市では市内小学生及び中学生の学校給食費無償化に取り組み、予算1億6214万7千円を見込んでいる。

母ヶ浦川周辺の
排水対策について

質問一 母ヶ浦川周辺の慢性的な浸水被害解消に向けた排水対策の検討協議の状況について。

答弁 豪雨時に排水が追いつかず、浸水被害が発生しやすいため、今年度、母ヶ浦川下流の遊水池の浚渫を実施した。また、令和8年度は、佐賀県が推進している田んぼダム推進事業に取り組み。この事業は、田んぼダム用調整板(せき板)を設置することで、水田の雨水貯留機能を強化し、大雨時に河川等への流出量を抑制することで水位の急



琵琶岬橋 (母ヶ浦区)

上昇を抑え下流域の浸水被害リスクの低減を目的としている。

質問二 母ヶ浦川周辺の対策は、地域の理解、協力、連携が重要であるが担当課の考えは。

答弁 母ヶ浦川水系流域排水対策協議会を設置し定期的に地元区の役員、行政関係者と協議を重ね、課題解決に取り組んでいる。

一般質問

一般質問



池田 廣志 議員

「つながる笑顔のまちなかしま」を進め、元気な鹿島市をつくるには

鹿島駅周辺整備事業の進め方について

質問 鹿島駅周辺の整備事業で、駅裏側の環境対策が見えないのと、スロートゥリズムを進めることで、鹿島市・太良町の地域振興を図るとされているが、その施策内容は、

答弁 線路用地の所有者は佐賀県で、線路周辺の維持管理者は、佐賀長崎鉄道管理センターである。駅東側にある桜の木20本程度の所有者は不明だが、鹿島駅の環境を適切に管理するために、関係機関と早急に協議する。また、鹿島市の宿泊施設不足を解消するために県と連携し、滞在型観光、いわゆるスロートゥリズムを推進する「沿線えきやど構想」に取り組んでいる。

異常気象の中、市の恒久的な防災対策は

質問 全国的に異常気象等が続く中、恒久的な市の防災対策は。
答弁 市では、地域防災計画に基づき、県や気象台などの関係機関と連携しながら、災害時における情報収集と住民への迅速な情報伝達体制の整備に取り組んでいる。
質問 若者が市内で就労する雇用対策について。
答弁 市内には高い技術を持った企業が多いので、主に高校生に対して、企業説明会を開催してきたが、参加者が減少傾向になり、今年度は西部中学校の協力を得て、授業の一環として、中学一年生に企業説明会を開催し、市内14社が参加された。また、今年も企業情報のパンフレットを作成し、

若者が市内で就労する雇用対策について

質問 若者が市内で就労したくなる雇用環境の伝達方法について。
答弁 市内には高い技術を持った企業が多いので、主に高校生に対して、企業説明会を開催してきたが、参加者が減少傾向になり、今年度は西部中学校の協力を得て、授業の一環として、中学一年生に企業説明会を開催し、市内14社が参加された。また、今年も企業情報のパンフレットを作成し、

有明海再生への取り組みについて

質問 有明海の再生への取り組みは。
答弁 今期の養殖海苔のスタートとなる種付け作業時の海水温が高く、これまでで最も遅い11月に入ってから網張込みとなったが、プランクトンによる赤潮の発生も無く、秋芽海苔は、豊作となったので、今後の取り組みの参考とする。



中村 和典 議員

市長一期目の活動成果について

ふるさと納税が大幅に増加した理由は

質問 令和4年度から7年度までの4年間で、約46億円となった。その要因は、専門業者への一括委託を導入し、広告力や企画力を活かしたPR強化や申込サイトの管理を改善したことなどが挙げられる。
答弁 令和4年度から7年度までの4年間で、約46億円となった。その要因は、専門業者への一括委託を導入し、広告力や企画力を活かしたPR強化や申込サイトの管理を改善したことなどが挙げられる。

返礼品ランキング上位5つは

質問 返礼品ランキング上位5つは。
答弁 1位、3位、4位が、12か月、6か月、3か月の野菜の定期便で寄付額の34%を占めている。2位は、シャインマスカットの3・4%、5位は、佐賀海苔の1・6%となっている。

市長二期目の重点施策について

質問 目玉となる重点施策と公約は。
答弁 肥前鹿島駅周辺整備とスロートゥリズムの拠点づくりをはじめ、広

鹿島消防署の移転計画について

質問 当初計画に対し、どれくらい遅れているのか。
答弁 鹿島市の役割分担として、用地の確保を担っていたが、一年ほど遅れている。

土地価格の見直しについては、これ以上は不可能なのか

質問 土地価格の見直しについては、これ以上は不可能なのか。
答弁 法令等に基づき公平性と透明性、客観性を確保しながら、適正な用地取得に努めている。

学校給食センターの候補地について

質問 祐徳グラウンドを候補地として、話が進められているが。
答弁 先と同僚議員の質問に対し、市長自ら白紙に戻すと答弁がありました。

私は、地元の意見として、素晴らしい自然環境を崩してもらいたくない。祐徳神社の臨時駐車場との良好な関係を続けてもらいたい。地域住民にとって、健康づくりやコミュニティの場としての必要性を申し上げた。



宮崎 幸宏 議員

肥前鹿島駅周辺整備事業

質問 総事業費約53億円の肥前鹿島駅周辺整備事業に対する鹿島市民の評価や意見をどのように捉えているか。
答弁 市議会報告会で本事業に対する否定的な意見があったことは把握している。これまで本事業に関する説明会やイベント等で情報発信してきたところであり、今後も市民の理解と協力を得られるように努めていく。

有明海沿岸道路(福富鹿島道路)

質問 有明海沿岸道路の進捗及び整備効果について。
答弁 大川佐賀道路(諸富IC〜川副IC)が令和8年度内の供用予定であり、有明海沿岸道路と佐賀唐津道路を接続する佐賀JCT工事が着手され、福富鹿島道路では鹿島側の一部(約2・5

福富鹿島道路の早期整備に対する方策(道路事業予算の確保)

質問 福富鹿島道路の早期整備に対する方策(道路事業予算の確保)について。
答弁 あらゆる機会において国土交通省や国会議員等の関係各所に対して要望している。今後も地域住民を含む関係者と連携し、福富鹿島道路の早期整備の機運醸成に努め、国や県に地元の熱意をしっかりと訴えていく。



勝屋 弘貞 議員

子育て支援について

質問 子育てにおいて、保育料や医療費の助成等の経済的支援、相談や一時預かり等の肉体的精神面での支援が、社会情勢・経済状況を鑑み、国の施策に沿い、これまでもなされてきた。しかしながら「子育て支援の充実を。」という声はまだまだ聞こえてくる。市長が考える子育て支援とは。
答弁 制度設計が進み、様々なニーズに沿って社会全体での取り組みが進んでいる。20年前と比べ育児の負担軽減・サービスの向上がなされる一方、個人化・孤立化といった問題が深刻化している。心の支援・地域との繋がりを重要視する声が増加し、ワンオペ育児から父親参加の育児が社会的にも求められている。育児の役割分担、社会全体で

子育てを支えるという意識が高まってきていると思う。
家庭それぞれに課題ニーズがあり、社会が連携し支える環境を整えることが、その地域の未来を築く子どもたちの子育ての基盤となる。子育て支援を通じ地域のつながりが強まり、子育てしやすい環境、健全な子育て環境を整えるということでは鹿島市にとっても重要な課題だと考える。分け隔てなく切れ目なく支援をすることが大事だ。

これから考えられる子育て支援策は

質問 国の方針で来年度より小学校の給食費が無償化することに伴い、中学校も市で負担すること小中学校全面無償化をする。子育て支援については、自治体同士の競争

となつていて、側面もあるが、一定程度は保護者の方々にも負担願うのも大事ではないかと思うので、今後の支援策については改めて検討していく。



一般質問

質問 令和8年度の駅前広場や駐車場、駐輪場等の実施設計において、コスト意識を持って工夫を凝らしコスト削減に努め

【文教厚生産業委員会審査報告】

議案第9号

「鹿島市地域経済牽引事業の促進のための課税免除に関する条例の制定について」

2月26日の本会議に於いて「文教厚生産業常任委員会」に付託された議案第9号『鹿島市地域経済牽引事業の促進のための課税免除に関する条例の制定について』当委員会を3月2日に開催した。

執行部から以下の趣旨説明を受け、質疑応答、討論、採決を行い、全員起立で可決した。

【執行部からの説明趣旨】

制定理由は、経済牽引事業を行う者に対し、固定資産税の課税を免除する事により、地域経済の発展を図るため。

背景は、これまで、地域経済振興の政策の一つとして、鹿島市企業立地促進特区における奨励に関する条例に基づき、県条例の要件に該当し、かつ市と立地に係る協定を締結した者を対象に優遇措置を行ってきた。

この措置は佐賀県と県内市町の独自施策であり、固定資産税の課税免除又は奨励金を交付するなどの選択制の制度だった。

進出企業及び既存企業による地域産業全体の発展の為、令和8年度からは、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づき、県の承認を得て地域経済牽引事業を新たに行う者を対象に県と連携して、優遇措置の拡充を行うもの。

条例の概要は、地方税法第6条第1項の規定により、地域経済牽引事業を市内で行う者に対して、家屋及び構築物並びに土地の固定資産税の課税を3年間免除する事ができるようにするもの。また、現行の制度を廃止する為、鹿島市企業立地促進特区における奨励に関する条例を廃止する。

施行期日は令和8年4月1日。

次に委員からの質問を抜粋して記す。

【委員からの質問及び執行部の答弁（抜粋）】

（質問）令和8年度より国の法律に基づいてという事で、全国の自治体は全てこういった税の優遇措置を設けられるという事なのか。

（答弁）先行してされている市町もあるが、今回鹿島市が令和8年度に変えるのは、県の条例、県自体が移行されるので、市も連携して変えるという事である。

（質問）この優遇措置を合わせて、鹿島市として企業誘致をしてもらいたい、企業誘致の担当部署から庁内でも主張してほしい。

（答弁）当然その法規制の中で対応していく分があるので、全体的なところを調整してやっていく必要があり、その中での対応となる。

（質問）県の承認を得た事業という事で、最初は鹿島市が何も関わらなくて県の承認を得る事になるのか。

（答弁）民間事業者が計画を策定するのが第一であるが、話が企業の方からあった場合、同行して県の方にアウト向き、この計画の策定や事業の実施については十分に協力をしていく。

【文教厚生産業委員会審査報告】

議案第8号

「鹿島市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定について」

2月26日の本会議に於いて「文教厚生産業常任委員会」に付託された議案第8号『鹿島市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定について』当委員会を3月2日に開催した。

執行部から以下の趣旨説明を受け、質疑応答、討論、採決を行い、全員起立で可決した。

【執行部からの説明趣旨】

制定理由は、法の規定に基づき特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準について、必要な事項を定めるため。

乳児等通園支援事業、いわゆる子ども誰でも通園制度は生後6か月から満3歳未満で、保育所等に通っていない子どもを育てている家庭が月10時間迄の利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる通園制度。市町村または市町村の認可を受けた事業者が実施する事ができ、認可に関する基準については、鹿島市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例を令和7年10月に制定している。

給付について、本事業は令和7年度迄は市町村の実情に応じて実施する事となっているが、令和8年度からは市町村の責務により全国で実施され、必要な費用は乳児等のための支援給付として「子ども子育て支援金」が充てられる。市町村の認可を受けた事業者が実施する乳児等通園支援事業は、市町村が定める基準を満たすものとして確認を受ける事で、給付の対象である特定乳児等通園支援事業となる。市町村が行う確認の基準として、法の規定により、特定乳児等通園支援事業の運営についての基準を条例で定める必要がある。

条例の概要については、国が定める特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準に準じ、条例に於いて3種類の基準を定める。

一つ目は従うべき基準で、国基準に必ず適合しなければならない基準。

二つ目は参酌すべき基準。

三つ目が市独自の基準で、暴力団排除の基準を定める。

施行期日は令和8年4月1日。

次に委員からの質問を抜粋して記す。

【委員からの質問及び執行部の答弁（抜粋）】

（質問）最短でどれ位で預ける事が可能か。

（答弁）鹿島市に利用の申請をしていただいた後、市が認定をし、その後希望の施設に申し込む。受入れが大丈夫という事であれば、1週間程度で利用できるものと思っている。

（質問）すぐに預けたい場合や何日か先に預けたい場合など、事前に申し込みをしていれば、園の方がOKだったら、日時も決めなくて預かってもらえるのか。

（答弁）柔軟利用と定期利用がある。基本的には定期利用をされることになる。子どもの育ちというのが主な目的であり、定期利用をしながら少しずつ社会性を育てる事になる。急に必要な場合についてこの制度は勿論使えるが、ファミサポとか他の事業の検討・利用もされているのかと考える。

（質問）この制度が開始された時に、鹿島市として需要が増える見込みがあるのか。

（答弁）対象者の人数としては、生後6か月から3歳未満で保育園に通われていない子どもが110人程度で、年間10人程度の利用があると見込んでいる。受け入れ側の施設については、実施の希望を令和7年に行い、その際4か園が希望をされていた。令和8年についても現在希望を取っている段階である。

（質問）預ける際の利用料金やおやつ代等は費用がかかるのか。

（答弁）基本的に保護者の負担は子ども一人当たり1時間300円。それと園の方がおやつ等を提供した場合は別途かかる。1時間当りの利用料の300円については、所得に応じて保護者の負担軽減、免除規定があるが、おやつ代についての免除規定はない。



故 松尾征子議員への追悼の言葉

(去る2月19日 3月定例会開会日の冒頭、伊東茂議員の追悼の言葉より抜粋)

令和7年12月18日に御逝去されました松尾征子議員に対し、謹んで哀悼の意を表します。

松尾征子議員は、鹿島高校を卒業後、鹿島市役所職員として勤務され、昭和46年4月、26歳の若さで鹿島市議会議員選挙に初当選され、昭和・平成・令和と鹿島市政を支え、鹿島市の発展に寄与されてきました。全国市議会議長会表彰を数多く受けられ、平成17年7月に佐賀県知事より地方自治功労表彰を受け、平成26年11月には鹿島市より自治功労表彰を受けています。平成30年1月には総務大臣より市議35年の表彰、令和4年5月には市議40年の全国市議会議長会表彰を受けられました。

松尾征子議員は常に弱者に寄り添い、手を差し伸べ、親身に相談に乗る優しい心の持ち主でした。それは、議員の責務は鹿島市民の生活を守ることだとの信念の上での行動だったと思います。保育の無償化、給食費の無償化、子どもの医療費助成など子育て支援事業、福祉の充実など熱心な議論を展開されていたことを思い出します。その強い信念は時としてこの議場で執行部と対峙することも多々ありました。勝負服の真っ赤なスーツで壇上に立ち、時には涙を浮かべ訴える姿はまさしく政治家、松尾征子議員の本領発揮でした。市長はじめ部課長、そして議員も熱意・熱弁に引き込まれました。男性・女性の枠を超えた先輩議員の姿に尊敬の念を覚えたものです。

鹿島市議会倫理綱領に定められたように、我々議員は市民全体の奉仕者として市政の発展と市民生活の向上に寄与し、真摯な態度を堅持し、議員本来の使命に最善を尽くすことを議員一同お約束し、お別れの言葉といたします。

【議会報告会のお礼と報告】

2月12日に西部地区及び東部地区で開催した「議会報告会」へのご参加ありがとうございました。当日提出いただいた質疑等のとりまとめの結果については各地区公民館に備えています。

【議会運営委員会行政視察報告】

●日程 令和8年1月20日～22日（視察先：2箇所）

委員長：中村一堯

副委員長：福井正

委員：杉原元博、笠継健吾、伊東茂、松田義太

オブザーバー：徳村博紀議長

登別市議会 人口42,584人

●全国一位の議会改革について

議会改革度ランキングが全国一位の登別市議会。議会フォーラムの毎年の開催。委員会による市民との意見交換・議会サポーター制度・市民共同の為の市民サポーター・専門家による専門的サポーター・オンライン委員会等の取り組みや委員会条例制定等取り組まれている。広報誌やSNS等を活用した情報発信は、市民に議会を身近に感じてもらう工夫が随所に見られ、本市議会においても取り組んでいく。



札幌市議会 人口1,964,894人

●ウォークブルシティーの推進

ヒト中心のまちづくりを実現しようとする明確なビジョンを持ち、歩行者空間の再編や滞留空間の創出により、にぎわいと交流を生み出している取り組み。行政・民間・市民が連携し、段階的に社会実験を重ねながら事業を進め、合意形成を重視する姿勢がうかがえた。単なる都市整備にとどまらず、経済活性化や観光振興、生活の質の向上につなげている点は、本市における中心市街地活性化を検討する上でも多くのヒントがあった。今後、JR肥前鹿島駅周辺整備事業におけるウォークブルシティーの参考にしていく。



議会あれこれ (令和8年1月～3月)

1月

- 5日 新年賀詞交歓会
- 10日 鹿島市消防出初め式
- 13日 議会だより編集会議
- 16日 佐賀県市議会議長会
- 20日 議会運営委員会行政視察 (～22日)
- 26日 臨時議会運営委員会
全員協議会
- 27日 九州市議会議長会理事会

2月

- 2日 環境未来都市特別委員協議会
- 3日 議会運営委員会
- 4日 全国市議会議長会 評議員会
- 10日 全員協議会
総務建設環境委員協議会
文教厚生産業委員協議会
- 12日 議会報告会
- 17日 議会運営委員会
- 19日 3月定例会 開会 (～3月24日)
佐賀県後期高齢者医療広域連合議会2月定例会
- 24日 臨時議会運営委員会
鹿島・藤津地区衛生施設組合議会2月定例会
杵藤地区広域市町村圏組合議会2月定例会
- 25日 佐賀県西部広域環境組合議会第1回定例会
- 26日 3月定例会 議案審議 (～27日)
- 27日 地域交通まちづくり特別委員協議会

3月

- 2日 文教厚生産業委員会
- 4日 新年度予算審査特別委員会 (～11日)
- 11日 議会報告会プロジェクト会議
- 16日 3月定例会 一般質問 (～19日)
環境未来都市特別委員協議会
- 19日 議会情報発信・議場開放プロジェクト会議
- 24日 3月定例会 閉会
全員協議会
- 25日 杵藤地区広域市町村圏組合議会2月定例会

行政視察受入状況(令和8年1月～3月)

- 1月16日 滋賀県守山市議会 文教福祉常任委員会 (11名)
- 1月23日 愛媛県大洲市議会 肱風会 (4名)
- 2月 6日 千葉県八街市議会 誠和会 (4名)

議長交際費を公表します。

金額単位：円

区分	1月		2月		3月		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
弔意	0	0	0	0	0	0	0	0
見舞い	0	0	0	0	0	0	0	0
祝儀	0	0	0	0	0	0	0	0
会費	3	24,000	1	8,000	1	6,000	5	38,000
接遇	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	3,630	0	0	0	0	1	3,630
合計	4	27,630	1	8,000	1	6,000	6	41,630

議会情報公開の運用状況をお知らせします。

鹿島市議会情報公開条例第22条の規定に基づき、令和7年度における議会情報公開の運用状況をお知らせします。

区分	請求	公開	一部公開	非公開	取り下げ
件数	15	2	0	10	3

審査請求件数とその処理状況・・・該当なし

編集後記

三月議会は、松尾征子議員空席の影響か何となく寂しい議会でありましたが、それでも長時間にわたる予算特別委員会や議案審議で熱心な討議が行われました。特に子ども子育て支援金が国民健康保険などの社会保険料に上乗せして徴収されることは、特に子どもがいない家庭にとっては不満が募り、そう議論となりました。しかし、小中学校での給食費無償化や中学校体育館の冷房設備の導入など明るい市民生活も描かれ、充実した三月議会でした。

令和7年度の編集委員三名は今回が最後の務めです。至らなかつた点が多々あることをお詫びして、これからの議員の任期を精いっぱい務めます。

令和7年度 かしま議会だより編集委員会

委員長 樋口 作二
副委員長 笠継 健吾
委員 角田 一美
顧問 中村 和典

※この議会だよりは、全て原稿提出者の責任により編集されています。